

平成 27 年度 下 半期 指定管理者管理運営状況シート

●施設の概要

施設名	サンフレンドうずら・児童センター	所管課	子ども未来部子ども支援課
所在地	岐阜市中鶉7丁目58番地		
指定管理者名	社会福祉法人 岐阜市社会福祉事業団		
指定期間	平成24年4月1日～平成29年3月31日まで		
選定方法	<input type="checkbox"/> 公募 <input checked="" type="checkbox"/> 非公募		
料金制	<input type="checkbox"/> 使用料 <input type="checkbox"/> 利用料金 <input checked="" type="checkbox"/> 料金徴収なし		
指定管理委託料(年額)	17,100,000円		
施設の設置目的	児童に健全な遊びを与えて、その健康を増進し、又は情操を豊かにすることを目的とする。		
施設概要	◇構造:鉄筋コンクリート造2階建 ◇敷地面積:2,037.00㎡ ◇延床面積:676.81㎡ ◇施設内容:遊戯室、幼児室、図書室、集会室、おもちゃ図書館、事務室、駐車場 ※障害者センターと合築で事務室ほか共用部分あり		

●利用状況

		H27 下半期	H27 上半期	H26 下半期	H26 上半期	H25 下半期
利用者数 (単位:人)	来館者数	13,680	14,505	20,617	22,249	20,398
	移動児童館利用者数	766	825	919	820	537
各室稼働 状況	移動児童館実施回数(単位:回)	18	14	16	13	11
	開館日数(単位:日)	151	156	151	156	151

●業務の履行確認

区分	確認事項	履行状況
利用者サービス	①開館日・開館時間の遵守 ②適切な人員配置 ③広報の方策 ④苦情への対応 ⑤仕様書、事業計画書に基づく事業の実施	①、⑤計画どおり実施。 ②所長、常勤職員4人。(児童厚生員は所長を含め5人)。 ③「おたより」を毎月発行・配布、利用者パンフレットの作成・配布、児童センター近辺の新しい住宅への訪問パンフレット配布、児童館ホームページ、職員ブログの更新、ぶりあネット活用。 ④意見箱の常設。利用者アンケートの実施と結果の掲示(情報開示の徹底)
自主事業・提案事業	—	—
施設管理	①施設設備の保守点検の実施(仕様書別記2参照) ②施設の衛生管理に対する配慮、快適に利用できる状態の保持 ③省エネルギー並びに環境への負荷の軽減に努めること ④施設・設備・備品等の維持管理	①、④適切に実施。 ②おもちゃの消毒、玩具、遊具の毎月定期点検実施。 ③使用していない部屋の消灯、適正室温の設定等節水節電を実施。古紙、ダンボール、ペットボトルなどを事業に活用し、リユースに努めた。
施設修繕	下記の観点からの修繕実施状況 ①迅速な修繕の実施 ②指定管理者のノウハウを生かした修繕・整備	②大規模な修繕については指定管理者(本部)並びに岐阜市に要望を提出。
危機管理・法令遵守	①個人情報の保護 ②非常時の対応策 ③関係法令の遵守	①、②、③マニュアル等に沿って適切に実施。 ②消防訓練を1回実施。

●利用者評価

利用者アンケートの実施状況	<p>○平成27年10月1日～平成28年3月31日 びよびよクラブ(0歳児)に登録した親51人にアンケート(無記名)を実施。 回答者数42人(回収率82.4%)</p> <p>○平成28年3月4日～3月11日 幼児クラブ(1歳児、2～3歳児)に参加した親159人にアンケート(無記名)を実施。 回答者数122人(回収率76%)</p>
利用者アンケートの実施結果	<p><びよびよクラブ(0歳児)></p> <p>○児童センターを知ったきっかけ(上位) 知人・友人から 12人、インターネット・HP 7人、保健師さんから 3人 他</p> <p>○幼児クラブを知ったきっかけ(上位) 知人・友人から 8人、インターネット・HP 6人 他</p> <p>○幼児クラブに参加した理由 同じ0歳児の子をもつお母さん達との交流をしたり、お話を聞こうと思ったから。 上の子が、1～3歳のクラブでお世話になり、よかったです。 親子で楽しめたらと思い参加した 他</p> <p><幼児クラブ(1歳児、2～3歳児)></p> <p>○児童センターを知ったきっかけ(上位) インターネット・HP32人、友人から27人、近所に住んでいる15人、上の子が参加していた11人 他</p> <p>○幼児クラブを知ったきっかけ(上位) 児童センターに来て39人、友人から24人、インターネット・HP21人、上の子が参加していた14人 他</p> <p>○幼児クラブについて ・幼児クラブに参加して 楽しかったです。…54人 家で過ごすより充実した…5人、同じ月齢の子たちと同じ時間を過ごせる貴重な時…3人 他 ・定員、回数、開催日について ちょうど良い41人 毎週あればよいと思う22人 毎週やってもらえて助かる9人 隔週なので少し寂しい3人 他</p>
利用者からの要望・苦情と対処・改善	<p>◎その他、児童センター全体についてのお気付きの点があればお聞かせください。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・英語のサークルをやってくれるとうれしい。 ・父親向けのイベントや父親同士の交流会があると嬉しいです。 ・利用者のマナーがもう少し良いと嬉しい。 ・いろいろな遊び、活動の準備ありがとうございます。 ・土曜日にパパと参加できる行事をふやしてもらえると嬉しいです。

●指定管理者の選定基準に基づく評価

区分	選定基準	評価項目	具体的な業務要求水準	評価		
				指定管理者	所管課	評価委員会
公平性 透明性	住民の平等利用が確保されること	平等利用を確保するための体制、モニタリングなど	・利用者アンケートの実施 ・運営委員会の開催	A	A	A
		情報公開、広報の方策	・利用者アンケート結果の公表(館内掲示など) ・広範で適切な広報活動の実施(ホームページなど)	A	A	A
		区分評価			A	
効果性	事業計画書の内容が、対象施設の効用(設置目的)を最大限発揮するものであること	既存業務の改善、工夫又は新規事業等の実施	・業務改善や工夫又は新規事業(行事)等の実施	A	A	A
		利用者ニーズ、苦情などの把握方法及び対応方策など	・利用者アンケートの実施 ・苦情・クレームへの着実な対応	A	A	A
		利用者に対するサービス向上の方策(窓口対応、プロモーション、設備の整備など)	・移動児童館の実施(仕様書別記3参照) ・利用者へのサービス向上に繋がる方策の実施	A	A	A
		利用促進、利用者増の方策	・利用促進や利用者増に繋がる方策の実施	A	B	B
		サービスの質を確保するための体制、モニタリングなど	・事務分掌等に基づく事務分担の実施	A	A	A
		施設の効用(設置目的)を最大限発揮できるスタッフの配置	・児童厚生員を2人以上、その他の職員(施設が児童センターの場合は体育指導員)を1人以上配置(このうち最低1人は常勤職員とすること)	A	A	A
		区分評価			A	

効率性	事業計画書の内容が、管理経費の縮減が図られるものであること	指定管理経費の妥当性(収支計画の妥当性など)	・収支計画に沿った運営(予算書に沿った執行)	A	A	A
		管理経費縮減の具体的方策	・管理経費縮減に繋がる方策の実施(リサイクルやリユース、節水・節電など)	A	A	A
		区分評価			A	
安定性 安全性	事業計画書に沿った管理を安定して行う物的能力、人的能力を有していること	組織及びスタッフ(採用予定者も含む)の経歴、保有する資格、ノウハウ、専門知識等	・児童厚生員を2人以上、その他の職員(施設が児童センターの場合は体育指導員)を1人以上配置(このうち最低1人は常勤職員とすること)	A	A	A
		スタッフ(採用予定者も含む)の管理、監督体制	・事務分掌等に基づく管理・監督体制並びに事務分担の実施	A	A	A
		スタッフ(採用予定者も含む)の人材育成の方策	・職員の資質向上を図る研修の実施又は研修会への参加	A	A	A
		リスクへの対応方策(防止策、非常時の対応マニュアルなど)	・危機管理(リスク)や非常時対応のマニュアルの整備 ・リスク防止策の実践	A	A	A
		区分評価			A	
区分	選定基準	評価項目	具体的な業務要求水準	評価		
				指定管理者	所管課	評価委員会
貢献性	事業計画書の内容が、岐阜市あるいは施設がある特定の地域(以下「地元」という。)の振興、活性化などに貢献できるものであること	地元の法人その他の団体の育成(一部業務の再委託先)、地元住民の活用(雇用又はボランティア等)	・地元の諸団体との連携、交流 ・地元の法人その他団体の育成又は地元住民・高齢者・障がい者等の活用	A	A	A
		地元での社会活動等への参加	・地元の振興、活性化などに貢献できる社会活動等への参加(地元行事への参加)又は地元の団体・住民との協働事業等の実施	A	A	A
		区分評価			A	

●指定管理者の取組みに対する自己評価(良否、課題と解決策など)

今期の取組みに対する評価	<p>内容を深め、事業数を増やすことで利用しやすい環境を整えた。</p> <ul style="list-style-type: none"> □ 下半期13, 680人、一日平均91人の利用 □ 児童向け事業34回 子育て支援事業124回 移動児童館18回 母親クラブ54回合計230回実施し、参加者延べ8, 530人 □ 子育て支援事業を毎日行い、子育て環境の整備、子育ての不安軽減に努めた。 <ul style="list-style-type: none"> ・乳幼児と保護者対象の登録制教室を週10クラブ実施 延べ327組が登録し延べ3, 327人参加 □ 幼児と保護者の昼食の場所を確保(火曜日～金曜日 午後12時～13時 図書学習室) <ul style="list-style-type: none"> ・延べ91人が利用 <p>地域の子育て力を上げる取組みを進めた。</p> <ul style="list-style-type: none"> □ 移動児童館を積極的に進め公平な利用に努めた 18回実施 □ 地域での母親クラブ活動 21回実施(読み聞かせ、人形劇等) 延べ3, 244人が参加 □ 地域を巻き込んだ行事を実施 <ul style="list-style-type: none"> ・鶏老人クラブとの共催で「うずらもちつき大会」を開催し、156人が参加した。 ・自治会の協力を得て「うずらセンターまつり」を開催し、230名が参加した。 □ 若いボランティアの活動の場を提供し、次世代の地域の担い手育成に努めた。 <ul style="list-style-type: none"> ・児童のときから利用していた地域の大学生、社会人7名がボランティアとして登録し、各事業で活動した。 □ 未就園児とその親を対象にリズム体操などを月1回、サタデーモーニングフィーバーとして実施した。 □ 放課後子ども教室(うずら小)に1回参加協力した。 <p>要支援児童への取組みを充実</p> <ul style="list-style-type: none"> □ 要支援、要保護児童への取組みを強化し、支援と予防に努めた。 <ul style="list-style-type: none"> ・子ども、保護者からの相談18件(進路及び子育て) □ 要支援児童に関して職員間ケース検討は随時実施 職員間で共有した。 □ 主任児童委員、小中学校、保護者と頻りに連絡を取り、情報を共有した。
前回までの意見を踏まえた取組み状況	<ul style="list-style-type: none"> □ 岐阜市社会福祉事業団内の独自研修5回、所長会6回で、ノウハウ、情報の共有化、課題への対処や意思統一などを行った。 □ ぶりあネット、岐阜市社会福祉事業団のHPの円滑な活用ができるようになり、うずら児童センターのHP、ブログに加え、ネットを利用した広報活動の幅が広がった。約1, 800件のホームページへのアクセス □ 利用者の減少については、学校の授業数の増加により、土曜日、平日の利用者が減ったこと、児童センターを居場所としていた児童が自立したこと、昨年の職員のファンであった児童が離れていったことなどが考えられるので、下半期は積極的に子どもたちと触れ合い、信頼関係を構築し子どもの要望を聞いたうえで、みんなが参加しやすいきめ細やかなこじんまりした行事を増やすようにした。また、どの年齢の子どもでも楽しむことができるよう行事内容を工夫した。

<p>今後の取組み</p>	<p>□予算、職員数に限りがある中、児童センターの目的を達成し、事業をより発展させるために</p> <ul style="list-style-type: none"> ・母親クラブ、保護者、大学生、社会人等のボランティアの育成と協力 ・地域の公共施設、NPO、サークルとの有機的連携などのマンパワー活用に力を入れ、児童センター事業の充実と地域の子育て力向上により貢献できる体制を引き続き整えていく。 ・中高校生の相談、支援が不登校、引きこもり、という問題があり、児童センターがそういう児童の居場所としての機能をなくすことなく、新設された子ども・若者総合支援センターや青少年・若者支援をしているNPOと連携し、支援の専門性を強化していきたい。 <p>□子どもからの意見</p> <p>子どもたちと積極的に意見を交わし、子どもたちが事業の企画立案に参加できるように努める。</p>
---------------	--

●所管課の意見

毎月の児童センターのおたよりを担当小学校へ配布するほか、ホームページへの行事の掲載や子育て支援パンフレット配布などの広報活動を行っている。

今期利用者数(児童館担当地区の人口増減率で補正後)の実績は、対直近3年の平均比70.9%のため、「利用促進、利用者増の方策」についての評価をBとした。

乳幼児と保護者対象の登録制の幼児クラブを週10クラブ実施するなど、子育て支援事業を毎日開催し、子育て環境整備、子育て不安軽減に努めた。

新規事業として、学校の土曜授業のある日の午前に、未就園児とその親子を対象にリズム体操「サタデーモーニングフィーバー」を開催し、利用促進に努めた。

また、老人クラブや自治会の協力を得て、「うずらもちつき大会」や「うずらセンターまつり」の開催を行うなど、地域を巻き込んだ事業を行った。

職員体制や運営状況については、問題なく運営が行われている。

●指定管理者評価委員会の意見

土曜授業があり児童の来館が見込めない時間帯に未就園児の来館を促進する取組は評価でき、今後他の児童館についても取り入れた方がよい取組と考える。

障がい者センターと併設した児童センターであるという特性を活かし、児童センターを利用する子ども達と障がい者センターの利用者との交流となる事業を積極的に実施していただきたい。

年間利用者数が昨年度と比較すると大幅に減少したが、児童センターを居場所としていた児童の自立や、長らくうずら児童センターに勤務していた職員の異動により児童が離れていったことが原因であるとの分析を行っているが、児童館は18歳までの様々な子どもの居場所としての役割をもっており、子どもの意見を聞き、互いに理解が深まるように努め、賑わいが取り戻せるよう期待したい。

児童センターを利用する母親に対し定期的に利用者アンケートを行っているが、今後は児童にもアンケート等により意見を聞くなど要望を分析し、満足度向上、利用促進に努めていただきたい。

管理運営は適正に行われており、良好と認められる。